
【1. 論文の書き方(補足)】

2002年秋に解説した、論文の書き方の続きとして。

= 確認 =

1) 何のために卒論を書くか

大学でしかできないこと(研究能力の獲得)をする為。しかし、これからの時代は、「研究能力を用いているんなことをすること」が、仕事と趣味の主流になっていく。

2) 社会学をすること = 社会的パースペクティブを身につけること。まだまだだよ。

= 具体的主張(君たちに望むこと) =

1) 社会学は言語だ。

辞書と教師が必要。それ以上に、「実地で話すこと」が必要。

友達との日常会話として、「社会学」を話そう。(だから、英語を読む!)

2) 徳島大学総合科学部は、学際教育・教養教育の場。直接の職業対応能力養成ではない。

長期的に生かしていける、生かしていこう。「現代社会論」につながる。

3) 卒論生には、4月における研究の急速立ち上げを望みたい。

ゼミの初回に、前期の計画を立ててしまいたい。(4月14日から授業)

4月11日には、指導教官を決めてしまいたい。だから、希望調査(書式自由)。この決定に合わせて履修すること。もちろん、「お見合い」はその前に。

締切がある仕事をこなそう。なるべく、今回の集中面談週間中に、面談を。

場合によっては、2回目~3回目の面談も必要なのだから、初回授業の2週間前、すなわち、3月31日までには、第1回の面談をすること(榎田の演習で卒論を書く場合)。

4) 面接日に、研究計画書を提出すること。その研究計画書をもとに、面接を行う。

面接は、アポ取りを。

5) 研究計画書の書式は、自由。以下は一つのひな形。A4で2~4頁。

タイトル案(複数可)

調査計画(理論の場合は読書計画) 週レベルの詳しいもの。

調査までに必要な作業が理解されていることが望ましい。

発想の経緯。議論の見通し。論文の売り。

参考文献(5冊以上あがっていることが望ましい)

その他(就職活動の計画等)

【2．卒論の榎田的条件】

- 卒業研究はお仕事である。そのつもりで従事せよ。
- 一番やりたいこと、を卒論テーマに選んではならない。2番目ならOK。
- 徳大生には調査（作業）のある卒論をお勧めする。
- 理論をうりにするのは得策ではない（過去にいないわけではない）
- 9月までに調査を終了させよ。
- 欧文文献を最低1本は使っていることが条件。
- 調査計画と文献表のしっかりしたテーマ発表をせよ（5月14日）
- ゼミを休むときには、事前連絡を。代わりに読書レポートを翌週のゼミまでに、榎田のポストに入れること。A4で1～2枚で構わない。就職活動中も卒論を忘れない。

【3．論文の書き方（抜粋編）】

（1）自分の問題意識（テーマ）の位置を確認する（2日間）

- 1) 自分はなにに関心を持っているのか。
- 2) 自分の関心は、学術的関心といえるか（学会で価値がある研究か）
例：理論研究なのか、学史研究なのか、
社会学なのか、学際研究なのか、
先行研究はあるのか、だれのどの論文が重要なのか、
- 3) 自分の今の実力で扱えるテーマか。扱える範囲はどこまでか。
扱える範囲で、自分は満足するか、学術的価値はあるか。
（「1 2 3」「1 2 」3 1.....循環）
- 4) 可能なら、この段階で人に構想を聞いてもらう。研究仲間を募る。

（2）議論の大枠を構想し、それを複数の作業に分割し、実施する（1週間から数ヶ月）

- 1) モデルになる論文を探す（他テーマでも可）
これまで読んできたもの、関心をもって集めて来たものを机の周りに集めて、好きなもの・感動したものを読み直す。2度目だから頭にはいる。
- 2) モデル論文の真似をして、議論の大枠を構想する。
「ポケットファイルと紙」（榎田はこの方式）あるいはノートを準備して、日々の構想メモをとにかく、まとめる。5分の4は無駄になるが、それに構わず集める。読み直す。時々大きな紙にまとめ直す。
- 3) 作業を定める
例：先行研究批判（基本：存在する場合は必ずする）
 - ・先行研究同士の齟齬を整理する
 - ・先行研究と事実の不一致、事実に対する説明不足の点を確認する

実証研究にしる、理論研究にしる

- ・スケジュール表をつくって作業する
 - ・行くところ、会う人には、早めに予約を入れる。
 - ・自分を「仕事」に追い込む体制を作る。

4) 関連論文を読む

日本語なら、1日に一本は論文が読めるはず。構想に1ヶ月かけるなら、休日があっても、20本は読める。
芋蔓式文献検索を基本に、データベースによる文献検索も必要に応じて行う。

（3）中間発表する。自分の論文の売り（アピールポイント）は何かを把握する。（1日）

- 1) 作業が一段落した時点で、中間発表をする。
できれば、発表内容の概要を参加者にまえて配布しておく。そうでないと、データに基づく反論を受けることができない。
- 2) 聞いてくれる人に利益があるよう、基本データ（文献表等）は印字配布する。
それは、自分にとってよい指針となる。
- 3) 発表会のあとの、食事会や飲み会でこそ本音（貴重な意見）が聞ける。その機会を積極的に作るようにする（批判的意見は、親密な場でしか聞けない）。
- 4) チャンスががあれば、
「(新)構想」「中間発表」「(新)構想」「中間発表」を繰り返す。

(4) 書く。締め切りに遅れない。(1週間から数ヶ月)

- 1) 文献表の作成、誤字脱字チェック、目次・索引・資料作り、も並行して行う。
後進が続きやすいようにすることが、知的生産の重要条件だ。
- 2) 引用の規範を守る。他人の著作権を守りつつ、自分の著作権も主張する。
引用注よりも、文献表方式の方が望ましい。原著までなるべく押さえる。
- 3) 謝辞は一般人に対してお礼をしたいときに書く。研究者に対しては、特別のことがない限り、不要。謝辞よりも、学問的に正当に評価し、引用・言及することの方が、相手はよろこぶ。
- 4) 発表にふさわしい場所を考える。学会員でなくても投稿できる雑誌は多い。

【4. 来年度の卒論関係の日程】

来年度の卒論発表会関係の公式日程(現代国際社会分野関係)

- 卒論テーマ発表会.....2003年 5月14日(水曜日)の午後(樋口実習の時間+)
- 卒論中間発表会2003年11月19日(水曜日)の午後(樋口実習の時間+)
- 卒論合同発表会2004年 2月 7日(土曜日)の午前と午後(予定)

来年度の卒論指導教官決定関係の日程(現代国際社会分野および榎田関係)

卒論オリ(榎田).....2003年 2月20日(木)の午後1時~2時半(冷やかし歓迎)

会場は、1号館南棟3階の社会調査室。卒論本体は、行動科学図書室に在。

卒論面談週間2003年 2月21日(木)~2月28日(要アポ&レジュメ)
樋口さんや、久保田後任教官氏は、別の時に面談日を設定済み。

卒論希望指導教官調査の集約.....2003年4月9日(水)の正午(書式自由、樋口研ドアポスト)

一人の教官に6名より多い学生が集中した場合には、調整の可能性があります。
翌々日(4月11日)までには、調整結果を発表するか、面談の呼出しをかける予定です。(1号館の南棟2階の社会学所管の掲示板に注意)